

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 080

(2024/25年度 USDA米国農務省 3月11日発表)

## ① 「トランプ2.0」の関税施策によって世界経済と農産物貿易に大きな混乱が発生する懸念が大きい

1月20日からトランプの第二期政権が発足し、政治/経済/通商等の分野で次々と新しい政策を打ち出し世界的に大きな波紋が広がっている。特に注目の関税政策は①メキシコ/カナダからの輸入品に25% (3/4発効) ②中国からの輸入に10% (2/4発効) ③鉄鋼/アルミに25% (3/12発効) ④相互関税の導入 (4/2発効予定) ⑤自動車に25% (4/2発効予定) ⑥半導体/医薬品に25% (時期不明) ⑦EUからの輸入品に25%を示唆 ⑧中国からの輸入品に更に10%追加 (3/4発効) などと矢継ぎ早に施策を打ち出している。これに対し米国からの最大の農産物輸入国である中国は報復措置として、3/4から小麦/とうもろこし等に対し15%、大豆/豚肉/水産物等に対し10%の関税を実施すると発表し関税戦争の火ぶたが切られた感がある。特に、中国は米国にとって2,800億ドル (42兆円) 余りの最大の貿易赤字国であり、中国に対しては最終的に60%関税と言う報道もあり今後どのような関税施策が打たれるか注目である。

## ② トランプ関税施策は際限ない報復関税を招き、米国農産物の競争力低下と他国へのシフトを促進させる可能性がある

今回の中国の米国農産物に対する報復関税は、小麦/とうもろこしについては元々輸入量が其々8百万ト程度で影響は軽微であると言えるが、大豆については更にブラジル等へのシフトがすすむと予想される。その背景は、今年のブラジル大豆生産/輸出量見通しは別表の通り169/106百万トと好調、また期末在庫は32百万トと輸出余力は十分でありこれにアルゼンチン在庫25百万トを加えれば6千万ト近い数量でありその余力は拡大する。現在中国の大豆輸入量109百万ト、国別にはブラジル70/米国25百万トと見られるが仮に米国分10百万トがシフトされれば米国穀物農家とマーケットに対する影響は大きいと言える。事実、トランプの支持基盤である米国中西部においては大きな反発があると報じられ、下記にある様にマーケットもその影響で反落している。また、中国は3/4に穀物メジャーCHS/Bunge/LDCの3社を農業混入疑いで中国向輸出業者としての資格停止処分としており、非関税分野での戦いも始まっている。

## ③ トランプ関税に対しては米国内では「常軌を逸している」の声が多数、今後の世論動向とインフレ状況がポイントに

トランプの矢継ぎ早の関税施策に対し、3/12のロイター通信の世論調査によれば57%が「余りにも常軌を逸している」、32%が「そうは思わない」との回答が報道され注目された。また、回答者の70%が関税引き上げによる食料品/日用品の値上がりを予想し、インフレ懸念が強いことを示している。更に、トランプはEUの米国への対抗措置である4/1〜米国産バーボンウイスキー等への50%関税賦課に対し、3/13にEU産ワイン/アルコール類に対し何と200%関税を課すと投稿し報復合戦はエスカレートの様相である。

## 1. 世界穀物需給の概要 (大豆除く)

① 生産量:	2,826百万ト (前年比0.3%)	増 ↑、前月比0.2%	増 ↑)
② 消費量:	2,861百万ト (前年比1.5%)	増 ↑、前月比0.2%	増 ↑)
③ 貿易量:	489百万ト (前年比5.1%)	減 ↓、前月比0.8%	減 ↓)

## 2. 小麦

① 生産量:	797百万ト (前年比0.8%)	増 ↑、前月比0.4%	増 ↑)
② 消費量:	807百万ト (前年比1.1%)	増 ↑、前月比0.4%	増 ↑)
③ 輸出量:	208百万ト (前年比5.9%)	減 ↓、前月比0.4%	減 ↓)
④ 在庫量:	260百万ト (前年比3.5%)	減 ↓、前月比1.0%	増 ↑) / (在庫率 32%) うち中国129百万ト、占有率50%
⑤ 価格:	<b>\$5.34/Bu</b> (前年\$5.60/Bu / 前月\$5.83/Bu) と前月比\$0.49 下落。		
⑥ 概況:	世界生産量は豪州/アルゼンチン等の増産を受けて前月比約4百万ト増、前年比でも6百万ト増となり順調。消費量は8億トを超え前年比約1千万ト増と生産量を上回る見通しである。ただ輸出量は2億トを超えるが国内消費量が増加する為、前年比13百万ト程減少する見込み。価格は米国に対する各国の報復関税による米国産需要低下懸念から大きく値を下げた。		

## 3. とうもろこし

① 生産量:	1,214百万ト (前年比1.1%)	減 ↓、前月比0.1%	増 ↑)
② 消費量:	1,239百万ト (前年比1.7%)	増 ↑、前月比0.1%	増 ↑)
③ 輸出量:	186百万ト (前年比3.7%)	減 ↓、前月比1.5%	減 ↓)
④ 在庫量:	289百万ト (前年比8.0%)	減 ↓、前月比0.5%	減 ↓) / (在庫率 23%) うち中国201百万ト、占有率70%
⑤ 価格:	<b>\$4.55/Bu</b> (前年\$4.12/Bu / 前月\$4.88/Bu) と前月比\$0.33 下落。		
⑥ 概況:	世界生産量は国別に若干の増減はあるが前月から大きな変動はなし。ただ前年比では米国減産の影響で約16百万ト減少する見通し。逆に消費量は中国/ブラジルが増加し前年比22百万ト増加見通し。ただ輸出量は小麦同様に生産国の国内消費が旺盛な為約6百万ト減少の見通し。在庫量は上記の通り大きく減少したが、米国に対する報復関税による需要減懸念から大きく低下。		

## 4. 大豆

① 生産量:	421百万ト (前年比6.5%)	増 ↑、前月比0.0%	⇒)
② 消費量:	409百万ト (前年比6.4%)	増 ↑、前月比0.7%	増 ↑)
③ 輸出量:	182百万ト (前年比2.5%)	増 ↑、前月比0.0%	⇒)
④ 在庫量:	121百万ト (前年比7.9%)	増 ↑、前月比2.4%	減 ↓) / (在庫率 30%) うちBRA32/ARG25百万ト
⑤ 価格:	<b>\$10.10/Bu</b> (前年\$11.43/Bu / 前月\$10.50/Bu) と前月比\$0.40 下落。		
⑥ 概況:	世界生産量は前月から大きな変動はなし。前年比では上記の様に約33百万トの大幅増産見通し。消費量も前年比約2千万ト増で4億トを超える見通しでマーケットが大きく拡大している。輸出量も前年比約5百万ト増加したが生産/消費増には追いついていない。在庫量は前月より減少したが前年比9百万トの大幅増。価格はその他穀物同様に報復関税懸念で\$10近辺まで下落。		

# 世界の穀物・大豆等の需給

2025年3月11日  
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2022/23	2,762	3,564	497	2,770	793		
	2023/24	2,818	3,612	515	2,818	794		
	2024/25	2月	2,819	3,612	493	2,856	756	
	2024/25	3月	2,826	3,619	489	2,861	758	
小麦	2022/23	790	1,065	222	789	276		
	2023/24	791	1,067	221	798	270		
	2024/25	2月	794	1,061	209	804	258	
	2024/25	3月	797	1,067	208	807	260	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2022/23	1,455	1,797	220	1,461	337		
	2023/24	1,505	1,841	237	1,497	345		
	2024/25	2月	1,493	1,839	226	1,522	317	
	2024/25	3月	1,496	1,840	223	1,524	317	
米	2022/23	517	701	55	520	181		
	2023/24	522	703	57	523	180		
	2024/25	2月	533	712	58	531	182	
	2024/25	3月	533	712	58	531	182	
大豆	2022/23	378	471	172	370	101		
	2023/24	395	496	178	384	113		
	2024/25	2月	421	533	182	406	127	
	2024/25	3月	421	533	182	409	124	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	315.81	1,212.47	181.16	1,237.96	189.23	290.31
	3月	313.95	1,214.17	180.30	1,239.19	186.36	288.94
アメリカ	2月	44.79	377.63	0.64	321.71	62.23	39.12
	3月	44.79	377.63	0.64	321.71	62.23	39.12
アルゼンチン	2月	3.09	50.00	0.01	14.30	36.00	2.79
	3月	2.59	50.00	0.01	14.30	36.00	2.29
ブラジル	2月	8.84	126.00	1.50	87.50	46.00	2.84
	3月	7.46	126.00	1.50	88.00	44.00	2.96
EU	2月	7.24	58.00	19.50	75.70	2.50	6.54
	3月	7.24	58.00	19.50	75.70	2.50	6.54
日本	2月	1.30	0.02	15.30	15.35	0.00	1.27
	3月	1.30	0.02	15.30	15.35	0.00	1.27
中国	2月	211.29	294.92	10.00	313.00	0.02	203.18
	3月	211.29	294.92	8.00	313.00	0.02	201.18
ロシア	2月	0.76	13.25	0.05	10.40	3.30	0.36
	3月	0.76	14.00	0.05	10.60	3.30	0.91
ウクライナ	2月	1.07	26.50	0.02	4.95	22.00	0.64
	3月	1.07	26.80	0.02	5.15	22.00	0.74

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	112.49	420.76	179.24	406.18	181.98	124.34
	3月	112.55	420.76	179.20	409.16	181.95	121.41
アメリカ	2月	9.32	118.84	0.54	68.70	49.67	10.34
	3月	9.32	118.84	0.54	68.69	49.67	10.34
アルゼンチン	2月	24.05	49.00	6.00	48.60	4.50	25.95
	3月	24.05	49.00	6.00	49.60	4.50	24.95
ブラジル	2月	27.97	169.00	0.15	60.10	105.50	31.52
	3月	27.97	169.00	0.15	60.10	105.50	31.52
中国	2月	43.31	20.65	109.00	126.90	0.10	45.96
	3月	43.31	20.65	109.00	128.90	0.10	43.96
EU	2月	1.12	2.85	14.60	16.97	0.30	1.30
	3月	1.12	2.85	14.60	16.97	0.30	1.30

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	267.49	793.79	204.81	803.72	208.99	257.56
	3月	269.50	797.23	202.70	806.65	208.07	260.08
アメリカ	2月	18.95	53.65	3.54	31.39	23.13	21.62
	3月	18.95	53.65	3.81	31.39	22.73	22.30
アルゼンチン	2月	4.54	17.70	0.01	7.05	11.50	3.70
	3月	4.54	18.50	0.01	7.05	11.50	4.50
オーストラリア	2月	2.91	32.00	0.20	7.50	25.00	2.61
	3月	2.91	34.11	0.20	8.00	26.00	3.22
カナダ	2月	4.58	34.96	0.55	9.50	26.00	4.59
	3月	4.58	34.96	0.55	9.50	26.00	4.59
EU	2月	15.54	121.30	11.00	109.25	28.00	10.59
	3月	15.54	121.30	10.50	109.75	27.00	10.59
中国	2月	134.50	140.10	8.00	151.00	1.00	130.60
	3月	134.50	140.10	6.50	151.00	1.00	129.10
インド	2月	7.50	113.29	0.20	112.24	0.25	8.50
	3月	7.50	113.29	0.20	112.24	0.25	8.50
ロシア	2月	11.69	81.50	0.30	38.25	45.50	9.74
	3月	11.69	81.60	0.30	38.25	45.00	10.34
ウクライナ	2月	0.71	22.90	0.08	6.90	15.50	1.29
	3月	0.71	23.40	0.08	7.00	15.50	1.69

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。  
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

# 世界の穀物輸出を牽引するとうもろこし生産拡大と食肉需要の動向(3)

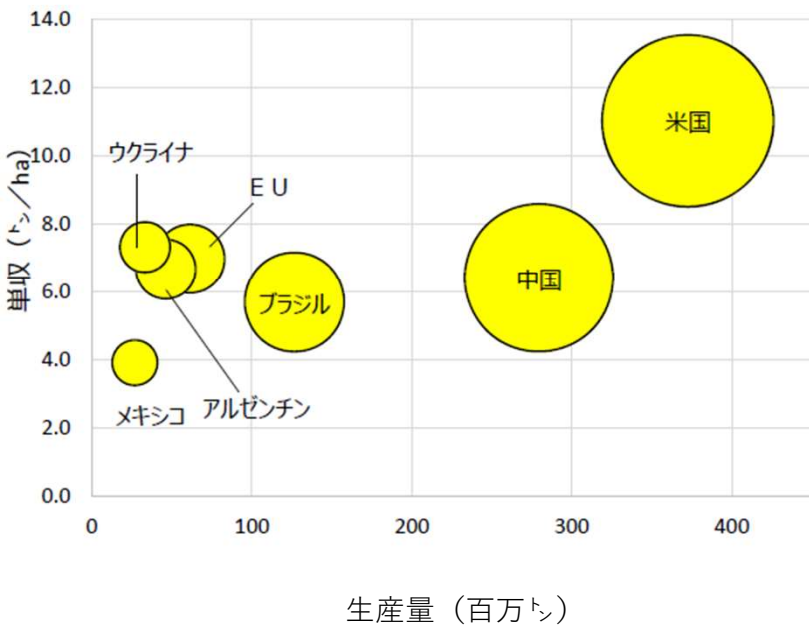
① [先月号では]…大豆も含めた穀物の海上輸送量が7億トンを超え一般炭に迫る勢いであること、その中で中国のとうもろこしの生産/消費量が世界シェアの1/4を占め、大豆に至っては世界貿易量の6割強の1億トンを輸入している実態などについて触れたが、今回は主食である「穀物」全体を俯瞰する意味で3大品目である「とうもろこし」「小麦」「コメ」の国別生産量と収量の概要について下記[表1][表2][表3]をベースにコメントを加えたい。

② [食料自給自足の中国/インドの穀物生産]… まず下記3表について総括的に言えば、国別の穀物生産の特徴と食糧政策をよく表していると言える。まず際立っているのは、其々14億人の民を抱える中国とインドの穀物生産状況である。両国とも主食は基本的に「自給自足」を国是としており、小麦とコメの生産量は他国と比べて突出して大きく、中国は小麦1.4億トン/コメ1.5億トン、インドは小麦1.1億トン/コメ1.4億トン、2国合計5.4億トンと世界の小麦/コメ生産の4割を占め28億の人口を支えている。今後インドの小麦需要の伸びが予測される。

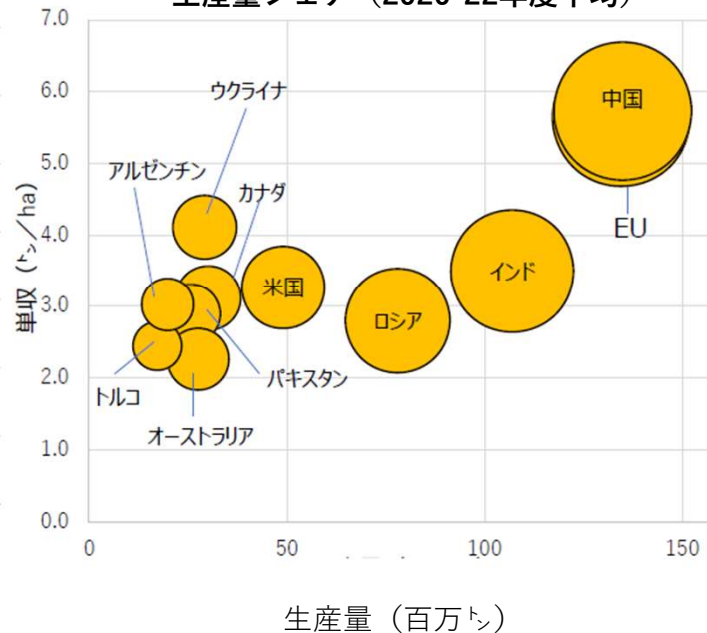
③ [両国の大きな違いはとうもろこしと畜産物の生産/消費量]…中国のとうもろこし生産量は統計表にある様に2.9億トンと米国に次ぎ世界第二位、それに伴う配合飼料生産2.6億トン、豚肉生産量は世界の半分の58百万トン、+鶏肉15/牛肉7百万トン=合計80百万トンと世界最大の食肉生産/消費大国となっている。これに対しインドはとうもろこし生産量数百万トンでごく僅か、産業としての配合飼料生産は統計上見当たらない。一方、インド人はどんな蛋白源で生きているのか…？ それは牛乳！世界の生乳生産量は9.7億トン、うちインドの生産/消費量は2.4億トンと世界シェア約25%で世界一位。飼料は牧草+雑穀+一部混合飼料。インドの水牛含む牛の飼養頭数は306百万頭で世界の約3割、国中牛だけである。彼らは死んだ牛はガンジス川に葬ると言うがそれはない。統計ではインドの牛肉生産は世界全体7,700万トンに対し約450万トンと世界5位、国内消費300/輸出150万トンと大きな存在である。

④ [作物別国別の生産/単収/海上輸送パターンは多様]…とうもろこしについては際立つのが米国の生産量と単収の高さである。別表では世界生産量12.1億トンのうち米国は3.8億トンとシェア31%、それに中国/ブラジルを加えた上位3カ国で8億トンと全体の66%を占め圧倒的。単収については、米国は95%以上がGMO化(遺伝子組換え)が進んでおり、中西部の気候土壌条件と併せ11.0トン/haと高い収量を実現。ブラジルはGMO化はすすんでいるが大豆との二毛作の為5.7トン/haと単収は米国の半分。中国はGMO化はまだ進んでおらず約6トン/ha程度に留まっている。とうもろこしの海上輸送量1.9億トンは別表の通り米国/ブラジル/アルゼンチンの3カ国で1.4億トン強と3/4を占め世界輸出の起点となり世界各国に。小麦はグラフの様に3-5千万トン前後と1億トンを超える国まで生産国が多彩。2.1億トンの海上輸送は余剰国であるロシア/豪州/カナダ/アルゼンチン/ウクライナ等⇒中東/アフリカ/アジア等に輸出されるのが主要パターンである。単収は中国/EUが多収/低蛋白(11%前後)品種栽培の為5.7トン/haと高い。コメは前述した様に中国/インドが生産の太宗を占めるが貿易量はアジア近隣国間で6千万トン弱に留まり他作物とは様相が異なっている。

【表1】世界のとうもろこし生産量・単収と主要国の生産量シェア (2020-22年度平均)



【表2】世界の小麦生産量・単収と主要国の生産量シェア (2020-22年度平均)



【表3】世界の米生産量・単収と主要国の生産量シェア (2020-22年度平均)

